

## 問題解決学習の調査における「情報活用」で気を付けるべき点を考えよう

7月19日(金)に総合教育センターで行った「情報メディア研修会」において、静岡大学教育学部の塩田真吾准教授に御講義をいただきました。塩田先生は、文部科学省「情報モラル教育推進事業」検討委員会、「学校DX 戦略アドバイザー」等を務めていらっしゃる先生です。研修会では、塩田先生と「LINE みらい財団」が共同開発した「GIGAワークブック」を活用しながら、「情報モラル」と「情報活用」に焦点を当て、ネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報のリスクなどを学ぶ情報モラル教育について御講義いただきました。受講者からは「子どもに自分事としてとらえさせるのに非常に有効だと感じた」と好評でした。そこで、研修会で取り上げられた「GIGAワークブック」の一部を紹介させていただきます。右の「アンケートの質問項目をつくろう」では、問題解決学習の調査等で端末を効果的に活用するために気を付けるべき点を学ぶことができます。信頼性の高いアンケートにするためにはどのような視点が必要か、先生方にも考えていただければと思います。(※回答例はプリントの下部に掲載)

このように「GIGA ワークブック」には、情報やICTを効果的に活用し、情報社会に参画して社会に働きかけるための情報活用について学習できる資料が盛り込まれています。右の2次元コードからアクセスできるので活用してみてください。

このように「GIGA ワークブック」には、情報やICTを効果的に活用し、情報社会に参画して社会に働きかけるための情報活用について学習できる資料が盛り込まれています。右の2次元コードからアクセスできるので活用してみてください。

アンケートの質問項目をつくろう

問題を解決するために、アンケート調査を行うことがあります。しかし、アンケートの項目をきちんと考えないと、意図したデータを得ることができません。次のアンケートの問題点に○を付け、なぜ問題なのか、どのように改善すればよいかを考えてみましょう。

○○市の好きなおところに関するアンケート

このアンケートは、○○学校が授業の一環で実施しています。全員必ず回答してください。

1. ○○市の自然や食べ物、よいと思いますか？

①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない

2. ○○市のよいところをすべて選んでください。

A: 食べ物 B: 観光地 C: 自然 D: 人の温かさ

3. ○○市には新幹線が通っていないので、とても不便です。新幹線を通すべきだと思いますか？

①そう思う ②そう思わない

GIGA  
ワークブック

出典:LINE みらい財団「GIGAワークブック」

## みやぎ情報活用ノートのご紹介

宮城県教育委員会でも、情報活用能力を育成するための資料として、仙台市教育委員会及び LINE みらい財団と「みやぎ情報活用ノート」を作成しています。「みやぎ情報活用ノート」は小学校、中学校、高等学校における、活動スキル、情報モラルの学習等に関する教材及び指導例が多く掲載されています。右の2次元コードのページからアクセスできるので活用してみてください。



みやぎ情報  
活用ノート

アンケートの質問項目をつくろう

問題を解決するために、アンケート調査を行うことがあります。しかし、アンケートの項目をきちんと考えないと、意図したデータを得ることができません。次のアンケートの問題点に○を付け、なぜ問題なのか、どのように改善すればよいかを考えてみましょう。

○○市の好きなおところに関するアンケート

このアンケートは、○○学校が授業の一環で実施しています。全員必ず回答してください。

1. ○○市の自然や食べ物、よいと思いますか？

①とてもよい ②まあよい ③あまりよくない ④まったくよくない

2. ○○市のよいところをすべて選んでください。

A: 食べ物 B: 観光地 C: 自然 D: 人の温かさ

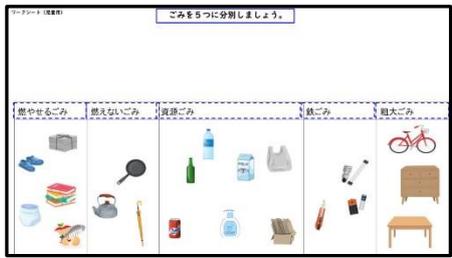
3. ○○市には新幹線が通っていないので、とても不便です。新幹線を通すべきだと思いますか？

①そう思う ②そう思わない

**回答の解説:** ①アンケートは強制的に実施してはいけません。②「自然や食べ物」と2つのことを入れてしまうと、どちらのことを回答してよいかわかりにくくなります。③「すべて選んでください」だと、それぞれの順位付けが難しくなります。④自分の意見を入れてしまうと、回答者がそれに影響を受けてしまいます。

## 実践事例紹介 みやプロGo!を使った授業実践 五十嵐 学美 先生

前号に引き続き、総合教育センターの『プログラミング教育パッケージ「みやプロ Go!」』を活用した授業実践例を紹介します。今回は、プログラミング的思考の中の「抽象化」の思考を取り入れ、社会(小4)のごみの分別状況を理解する学習で、様々な家庭ごみを仲間分けし、共通点を抜き出す授業実践を行いました。

学校名	多賀城市立山王小学校	教科、領域	社会(小学校第4学年)
概要	<p>・主な学習活動 ★活動の留意点 ○児童の様子</p> <p>単元名：ごみのしよりと利用(本時1/12)</p> <p>本時は、身の回りのごみを分別する活動を通して、ごみの処理の現状について理解することを目標としている。今回は、ごみの分別の仕方を考える際に、「みやプロ Go!」の学習動画を視聴したり、学習ツールを活用してごみを仲間分けしたりする活動を取り入れる。</p> <p><b>【導入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭で出るごみを分別する」という本時のめあてを提示する。</li> <li>・「みやプロ Go!」の学習動画を視聴し、プログラミング的思考の「抽象化」の思考について理解を促す。</li> </ul> <p>★小学校第4学年の児童にも分かるよう、難しい言葉を易しい言葉に変えて説明する。</p> <p>○終始集中して聞いていた。特に、クイズの部分では、本の共通点を考えて並べ替えようとしていた。</p>		
	 <p>【写真1】学習動画の画面</p>		
	<p><b>【展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ツール(Google スライド)を使って、ごみのイラストを分別させる。</li> <li>・分別したごみの種類に名前を付けさせる。</li> </ul> <p>★学級の実態に応じて、個別に配布するか、児童数と同じ枚数のスライドを共有して作業させるか、選択する。</p> <p>★イラストの移動や文字の入力等、操作の仕方を確認する。</p> <p>★どのように分類しても、自分で共通点を見つけて分類できていればよいことを伝える。</p> <p>○ごみのイラストを分別する作業は全員ができたが、ごみの種類に名前を付ける作業は個人差が出た。そこで、どんな仲間だと考えて分別したのかを問い掛け、グループ活動を取り入れたところ、ほとんどの児童が分別したごみの共通点を見付けることができた。</p>		
	 <p>【写真2】児童が作業したスライド</p>		
使用機材 ソフトウェア	<p>生徒使用端末：Chromebook 使用したアプリケーション等：Google スライド</p>		

### 編集後記

今回は、研修の中で先生方から反響の大きかった資料を紹介させていただきました。「GIGA ワークブック」や「みやぎ情報活用ノート」は、児童生徒だけでなく私たち大人もネットの特性や情報のリスクについて深く学ぶことができます。是非ご活用ください。

【第29号担当：情報教育班 齋藤】